

新幹線車両が大村車両基地へ輸送されました（令和4年1月6日～11日）

令和4年1月6日から11日にかけて、西九州新幹線で使用される最新の車両（N700S）が大村車両基地へ輸送されました。



輸送経路図

本車両は、山口県下松市にある日立製作所笠戸事業所にて製作され、1編成6両が1月6日の午後5時ごろ長崎に向け同事業所を出港しました。

その後、関門海峡を7日未明に、平戸大橋の下を同日午後通過し、8日の午前8時半ごろ大村湾への出入口である針尾瀬戸に架かる新西海橋と西海橋の下を通過しました。

玄界灘を通る際は、輸送される車両を船上より見学する観覧ツアーがJR九州高速船により開催され、多くの方が参加し注目度の高さが伺えました。



新西海橋



西海橋

そして、8日の午前に長崎県東彼杵郡川棚町にある川棚港に到着し、翌9日の午前9時半から岸壁に陸揚げが行われました。

車両は、2台のクレーンにより陸揚げされ、運搬用の台車に載せられる際は、傾きや降ろす位置に誤りがないか、慎重に慎重に作業が行われていました。



川棚港での陸揚げの様子

陸揚げ後には、記念の式典として、長崎県、長崎新幹線・鉄道利用促進協議会及び川棚町の主催による歓迎セレモニーが開催され、長崎県の中村知事やJR九州の青柳社長らの出席のもと、車両の到着を祝いました。



中村知事



記念撮影

陸揚げされた車両は、その後川棚港から長崎県大村市竹松町で建設中の大村車両基地へ、陸上輸送されました。

陸上輸送は2日に分けて行われ、1日目は半分の3両が10日の午前0時20分ごろから順次輸送されましたが、沿線には多くの人がかかけ、なかなかお目にかかれない新幹線の輸送を見守りました。

また輸送は、大型トレーラーで車両を運ぶ状態が、道路を一般的に通行できる車両の制限（車両の幅や長さ、総重量など）を超えるため、前後に誘導車を配置し、交差点や道路の幅が狭い箇所などを通過する際に誘導を行うなどの安全対策がとられていました。



川棚港のギャラリー



川棚港交差点



東彼杵町江頭交差点



大村市植松
(JR 大村線と新幹線本線のアンダー)

基地には午前 3 時半ごろまでに 3 両全て無事到着しました。また、残り 3 両についても翌 11 日に輸送され、6 両すべてが無事車両基地に到着しました。



大村車両基地に入る様子

今後も引き続き、残り 3 編成の車両搬入が行われるとともに、搬入された車両については基地において組み立てや整備が行われ、本線での試験走行に向けての準備が進められることとなっています。